

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 22 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520256

研究課題名(和文) 東海地域近世・近代能楽資料の収集・整理とデータベース化

研究課題名(英文) Collection and making database of Noh performance's media materials from Edo to Showa era at tokai area

研究代表者

飯塚 恵理人(iizuka, erito)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：00232132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：藤田六郎兵衛師より提供いただいた明治30年代の藤田家と東京の役者の出演交渉に関する書簡を翻刻した。これについては鶴舞図書館の郷土文化に投稿するため現在原稿作成中である。佐藤友彦氏より提供された尾張藩御役者山脇和泉家に伝わる間狂言本を撮影し、現在翻刻中である。研究機関内に第三冊「修羅冊」まで翻刻を発表することが出来た。

研究成果の概要(英文)：We typewrote letters rented from Mr.Rokurobyoue Fugita, which were written about the negotiations of performances with actors lived at Tokyo in the Meiji 30th. They will be show at our paper at the academic journal "Kyodo-bunka" published by the Tsurumai library at Nagoya. The books of Ai-kyogen rented from Mr.Tomohiko Sato owned by Yamawaki Izumi family's (noh performance actors of Owari-han at Edo era), we took pictures and have been typewriting. In now, we made three typewriting series (1st to 3rd of books). The 3rd one is of the book for Syura(the eternal battle field and its residents) noh performances.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：東海地域 能楽 SPレコード ラジオ放送 アーカイブ デジタル化 尾張藩 データベース

1. 研究開始当初の背景

能楽番組の全国的な収集とデータベース化を最初に提唱・推進したのは、元法政大学能楽研究所教授の故表章氏である。同氏が研究代表者となった科学研究費助成総合研究(A)1991年度～1993年度「演能記録の全国的総合調査と演能年表の編纂」(研究課題番号:03301054)は、江戸時代の能楽の実態を資料的に明らかにした。表氏の研究は引き続き、1999年度～2002年度「中世から近世・近代にいたる都市と能楽の関係についての総合的研究」(研究課題番号:11410115)に引き継がれた。同研究の報告書には「(1)全国の地方諸藩の能楽資料の残存状況を調査し、(2)藩政日記中の演能記事、演出資料、演能記録等を可能な限り収集・整理し、(3)地方各都市における能楽の浸透の程度や演能の際の経済的基盤、役者確保の方法、技法の伝播の仕方など、様々な問題を具体的な資料によって跡づける作業を行ってきた。その結果、資料収集の面では、予想通り各藩の藩政日記は能楽資料の宝庫であることが確認され、特に東北・北陸諸藩を中心に撮影・収集が進んだ。が、逆に、量があまりにも膨大なため、これらの大藩や江戸・京・大坂といった大都市の状況については全体を俯瞰する論をまとめるまでに至らず、基礎資料としての能楽関係記事年表や、個々の役者に関する考察等、一側面を切り取った論考を掲載することになった。一方、比較的資料が限られた小藩に関しては、調査・考察が行き届き、複数の都市について、まとまった研究成果を挙げる事ができた」とある。

飯塚・三木はこの研究に刺激を受け、表氏の研究手法を学びつつ、これを「東海地域」の「近代」の能楽資料に応用したいと考えた。そして、大倉流大鼓方算鉦一師が収集された東海地域の能番組約五千枚のデータベース化を行い、平成13年に『近代名古屋の能楽を支えた人々』(全三冊)(深谷哲監修 算鉦一・飯塚恵理人編集 三木邦弘プログラム作成)をまとめた。これは(一)(二)の二冊が明治元年から昭和63年までの東海地域で行われた能番組集、(三)が演目索引・人名索引である。この本によって、東海地域の明治以降の能楽の担い手の変遷が明らかになった。現在東海地域の能番組のデータは平成20年分までの入力が終了し、形式が整えられた平成14年分までを椋山女学園大学三木邦弘研究室の「能楽番組検索システム」(<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~miki/search.html>)において公開している。また算鉦一師が収集された能番組(紙媒体)はすべて椋山女学園大学図書館に収めたが、これらの画像のデジタル化も順次行っており、昭和46年分までを三木研究室ホームページより公開している。また東海地域の能楽界の変遷について得られた知見は『近代能楽史の研究 東海地域を中心に』(飯塚恵理人 大河書房研究業績)にまとめた。

2. 研究の目的

名古屋を中心とする東海地域は、「芸どころ」と呼ばれ、現在でも全国的に見て能楽の盛んな地域である。そして近世に尾張藩や藤堂藩が御役者を抱えるなどして保護した流儀が、現在でもその土地に根付いている。本研究は関ヶ原の戦い以降、幕藩体制が作られてから現在に至る東海地域の能楽の歴史を資料に基づき明らかにし、またその資料を広く利用できるようデータベース化することを目的とする。方法として、近世については幕府・藩の能楽に関する保護と管理の実態を、尾張藩御役者・愛好者の子孫が所蔵する伝書、能番組の整理から明らかにする。明治以降については、新聞・雑誌記事の整理と能番組の整理、写真・録音の収集とデジタル化から明らかにする。

3. 研究の方法

(平成23年度)・平成20年・21年に東海地域で行われた能番組を収集・整理・データベース化する。

・尾張藩御役者の子孫・後継者の伝書・門人帳等の整理・翻刻をする(大倉三忠師・佐藤友彦師より資料提供)

・明治・戦前の謡曲SPレコード、昭和30年代のオープンリール録音を収集しデジタル化する。

(24年度)対象能番組の年度を22年・23年とし研究を継続する。御役者の後継者の所蔵資料調査は算鉦一師・藤野藤作師にお願いする。(25年度)平成24年度の能番組と新城の江戸期から現在までの番組を対象として研究を継続する。収集・整理した資料目録を作成し、「名古屋芸能文化」に投稿する。

4. 研究成果

近世の東海地域の能楽の特徴として、藩の御用商人を勤める富裕層が「社交」のために謡曲や囃子を習い、それが「家族」や「使用人」にも広がって行ったことが挙げられる。東海地域の富裕層が商談の際の社交・接待に用いた趣味は能楽だけでなく和歌・茶道・文学・文人画など幅広かった。石水博物館所蔵の川喜田家旧蔵江戸初期筆六冊組謡本は、その書き込みから京都の近衛家周辺にいて脇を稽古した人物が書写したことが確実な本であるが、川喜田家ではこれを謡の稽古に用いるより、「典籍」と見なし筆跡の手本として使用していた。能楽およびその道具類が本来の用途ではなく、近衛家所縁であるということから、周辺の「趣味」とも交渉を持つことが明らかになった。

また石水博物館は松阪の長井家旧蔵の謡本を多く所蔵する。長井家の能楽はシテ方としては喜多流だが、所蔵する謡本は喜多流だけではなくシテ方各流儀を揃えていること、また小鼓の打ち方が多く書き込まれていることに特徴がある。調査から、長井家が能楽で接待をする時は小鼓を担当して、藩の役人

などがどの流儀の謡を謡ってもそれを囃すことが出来るようにしていたことを謡本の書き込みを通じて明らかにした。

書簡・書籍については2点を翻刻した。藤田流笛方宗家藤田六郎兵衛師より提供いただいた明治30年代の藤田家と東京の役者の出演交渉に関する書簡の翻刻については、その成果を名古屋市鶴舞図書館内郷土文化会発行の「郷土文化」に投稿するため、現在原稿執筆中である。佐藤友彦氏より提供された尾張藩御役者山脇和泉家に伝わる間狂言本については現在翻刻中であるが、研究期間内に第三冊「修羅冊」まで翻刻を発表することが出来た。

明治時代、能楽の愛好者は御用商人から鉄道の開通や電燈会社・ガス会社・全国規模の銀行の開業により誕生した「大学卒で資産はないが知識・技能により高給を得る」知識人階級にシフトする。この時期から梅若家など東京の劇団が地方に勃興したこの階級の観客・弟子を求めて進出する。梅若万三郎家の乾板写真・レコード等の資料から、写真・レコードを「舞台の見本」として、広告に使用し新たな弟子の獲得に勤めていたことを明らかにすることが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計45件)

1. 「民放草創期放送音源及び放送劇団関係資料の収集・整理とアーカイブ化報告」飯塚恵理人 平成26年3月 椋山人間学センター「椋山人間学研究」第9巻 P.183-193
2. 「劇団CBC関連資料 長谷川敬(芸名: 芹江敬)氏所蔵写真から」飯塚恵理人 平成26年3月 椋山女学園大学文化情報学部「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第13巻 P.181-189
3. 「《経正》試解 琵琶の音と和漢朗詠集の朗詠利用を中心に」飯塚恵理人 平成26年3月 紫明の会「紫明」第34号 P.56-61
4. 「佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言『修羅語問』」飯塚恵理人 平成26年3月 椋山女学園大学「椋山女学園大学研究論集」第45号 人文科学編 P.31-47
5. 「狂言『腰祈』を英訳する」ウィリアム・ペトルシャック 飯塚恵理人 平成25年12月 名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第23号 P158-168
6. 「能楽普及の新しい形名古屋中川運河チャンネルアート 長谷川章のデジタル掛け軸と辰巳満次郎の『能舞』(能評)」飯塚恵理人 平成25年12月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年12月号 5面
7. 「脇能の面白さ 名古屋能楽堂定例会 古橋正邦の「弓八幡」(能評)」飯塚恵理人 平成25年11月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年11月号 6面
8. 「《六浦》試解 草木の心と成仏」飯

- 塚恵理人 平成25年10月 紫明の会「紫明」第33号 P.69-73
9. 「梅若万三郎家所蔵 初世万三郎師の『娵捨』関連資料」飯塚恵理人 平成25年10月 梅若研能会「橘香」第58巻10号 P.12-13
10. 「名古屋能楽堂七月普及公演 梅田嘉弘の「野守」の充実(能評)」飯塚恵理人 平成25年9月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年9月号 3面
11. 「東海地域の六月 名古屋能楽堂 豊田市能楽堂定例会公演の充実(能評)」飯塚恵理人 平成25年8月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年8月号 8面
12. 「上品な楽しみ 四月二十日名古屋梅猶会梅若猶義の「隅田川」(能評)」飯塚恵理人 平成25年6月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年6月号 4面
13. 「日本風俗史学会への期待 広く開かれた学会へ(提言)」飯塚恵理人 平成25年5月 日本風俗史学会「風俗史学」第52号 P.65-66
14. 「なごや妖怪狂言『冥加さらえ』を観て(能評)」飯塚恵理人 平成25年5月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年5月号 3面
15. 「名古屋観世九皇会の充実(能評)」飯塚恵理人 平成25年4月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年4月号 3面
16. 「梅若万三郎家所蔵写真乾板のデジタル化について(二)」飯塚恵理人 平成25年3月 椋山人間学研究センター「椋山人間学研究」第8号 P.182-193
17. 「《蝉丸》試解 知るも知らぬも逢坂の関」飯塚恵理人 平成25年3月 紫明の会「紫明」第32号 P.64-69
18. 「近代愛知県の三曲について 担い手の変化と口承から楽譜による伝承へ」飯塚恵理人 平成25年3月 愛知県「愛知県史研究」第17号 P.65-72
19. 「昭和二十年台・三十年台のCBCラジオ劇関係資料について」飯塚恵理人 平成25年3月 椋山女学園大学文化情報学部「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第12巻 P.169-178
20. 「石水博物館所蔵『江戸初期筆六冊組観世流謡本』のクセの出の拍子についての注記」飯塚恵理人 平成25年3月 東海能楽研究会「東海能楽研究会年報」第17号 P.12-13
21. 「佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言『末社脇能 九下』」飯塚恵理人 平成25年3月 椋山女学園大学「椋山女学園大学研究論集」第44号 人文科学編 P.73-95
22. 「野村又三郎家の充実名古屋能楽堂 狂言三の会第十一回公演(能評)」飯塚恵理人 平成25年2月 能楽書林「能楽タイムズ」2013年2月号 6面
23. 「能楽初心者向け英文ビデオ教材の制作 能『嵐山』の小書『猿智』の解説ビデオの原稿試作」ウィリアム・ペトルシャック

飯塚恵理人 平成 24 年 12 月 名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第 22 号 P.99-109
24. 「《養老》試解 国土を寿ぎ健康を守る神仏」 飯塚恵理人 平成 24 年 10 月 紫明の会「紫明」第 31 号 P.78-83
25. 「欧米文化圏能楽初心者向け狂言教材の研究 『三本柱』を中心に」 ウィリアム・ペトルシャック 飯塚恵理人 平成 24 年 9 月 衣の民俗館「民俗と風俗」第 23 号 P.177-187
26. 「梅若万三郎家所蔵写真乾板のデジタル化について」 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 椋山人間学研究センター「椋山人間学研究」第 7 号 P.139-147
27. 「中部日本放送放送劇団の資料について」 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 椋山女学園大学「椋山女学園大学研究論集」第 43 号 P.61-68
28. 「《阿漕》試解 漁師と法華経」 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 紫明の会「紫明」第 30 号 P.61-66
29. 「欧米文化圏能楽初心者向け狂言教材の研究 『蟹山伏』を中心に」 ウィリアム・ペトルシャック 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 平成 23 年 12 月 名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第 21 号 P.118-129
30. 「能楽初心者向け英文ビデオ教材の制作 『嵐山』解説ビデオの原稿試作」 ウィリアム・ペトルシャック 飯塚恵理人 平成 24 年 12 月 名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第 22 号 P.99-109
31. 「明治三十年代後半梅若家の繁栄 梅若万三郎家所蔵写真乾板から」 飯塚恵理人 平成 24 年 9 月 梅若研能会「橘香」第 57 巻 9 号 P.18-19
32. 「三曲の伝統と継承」 飯塚恵理人 平成 24 年 9 月 名古屋市文化振興事業団「なごや文化情報」第 343 号 P.8
33. 「名古屋の民謡界」 飯塚恵理人 平成 24 年 8 月 名古屋市文化振興事業団「なごや文化情報」第 342 号 P.4-5
34. 「韓国での能ワークショップ「古くて新しい能の魅力」開催(能評)」 飯塚恵理人 平成 24 年 8 月 能楽書林「能楽タイムズ」2012 年 8 月号 8 面
35. 「日露戦争期の梅若家の充実 明治 36 年の『梅若実日記』から」 飯塚恵理人 平成 24 年 4 月 梅若研能会「橘香」第 57 巻 4 号 P.18-19
36. 「石水博物館所蔵江戸初期六冊組上掛系謡本」 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 東海能楽研究会「東海能楽研究会年報」第 16 号 P8-9
37. 「名古屋の俗謡 名古屋甚句」 飯塚恵理人 平成 24 年 3 月 名古屋市文化振興事業団「なごや文化情報」第 336 号 P.4-5
38. 「冬の名古屋(能評)」 飯塚恵理人 平成 24 年 2 月 能楽書林「能楽タイムズ」2012 年 2 月号 5 面
39. 「梅若万三郎家所蔵乾板フィルムのデジ

タル化について」 飯塚恵理人 平成 24 年 1 月 梅若研能会「橘香」第 57 巻 1 号 P.16-17
40. 「豊嶋十郎筆『高安流 仕舞附 人』(八)」 飯塚恵理人 平成 23 年 12 月 名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第 21 号 P.80~P.96
41. 「名古屋観世九皇会 中所宣夫師の「松風」(能評)」 飯塚恵理人 平成 23 年 11 月 能楽書林「能楽タイムズ」2011 年 11 月号 6 面
42. 「梅若万三郎家所蔵 16 ミリ映画フィルムのデジタル化について(3) エレーヌ夫人とマルセルが遺したもの」 飯塚恵理人 平成 23 年 9 月 梅若研能会「橘香」第 56 巻 9 号 P.18-19
43. 「梅若万三郎家所蔵 16 ミリ映画フィルムのデジタル化について(2) エレーヌ夫人羽衣の碑除幕式」 飯塚恵理人 平成 23 年 7 月 梅若研能会「橘香」第 56 巻 7 号 P.16-17
44. 「梅若万三郎家所蔵 16 ミリ映画フィルムのデジタル化について(1) エレーヌ夫人羽衣の碑除幕式」 飯塚恵理人 平成 23 年 6 月 梅若研能会「橘香」第 56 巻 6 号 P.14-15
45. ルクサンドラ マルジネアン=コウノ著 『能 伝統の創造』 飯塚恵理人 平成 23 年 5 月 能楽書林「能楽タイムズ」2011 年 5 月号 6 面

〔学会発表〕(計 1 件)

・日本演劇学会秋の研究集会アーカイブショーケース 2013 年 10 月 14 日-15 日 飯塚恵理人

〔図書〕(計 2 件)

1. 「愛知県史 資料編 35 近代 12 文化」 共著 平成 24 年 3 月 愛知県「第四章芸能 第一節古典芸能 一能・狂言」P.608~633 と「解説 第四章芸能 第一節古典芸能 一能・狂言」P.930~931 を飯塚恵理人執筆。(本文:P.1~1010)
2. 「能・狂言を学ぶ人のために」 共著 平成 24 年 3 月 世界思想社「第一章 歴史 3. 室町期」P.26~36 と「5. 江戸期」P.44~P.56 を飯塚恵理人執筆。(本文:P.1~287)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~izuka/erito1/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

(飯塚恵理人)

研究者番号: 00232132

(2) 研究分担者

(三木邦弘)
研究者番号： 80174001

(3)連携研究者
なし